



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

充電器

新型の流行病もようやく5類に移行され、徐々にその前の生活に戻ってきた。月に一度の施術のための帰省も再開となり、5月のはじめには久しぶりに南宇和剣道会にも顔を出すことができた。小学生だった子たちが中学生になり、高学年だった子たちは高校生になってこの町を離れ、3年という時間の重さを感じた。大人にとってはあっという間やけど、子どもたちにとっては大きな時間。と、言いたいのが3つ年を重ねて40歳半ばになった私は月イチの帰省がめっちゃくちゃしんどい！私にとっても大きな時間やん！と嘆いとる。そんなことは置いといて、長く会えなかった友人や知人との再会は言葉にならんくらい楽しかった。心がどんどん充電される。

そして、帰ってくるといつもどこかで誰かが「広報を読んでもよ！」と声をかけてくれて(たまに「本当に自分で書きよん？」と聞かれたりするけど(失礼やろ！笑)それでも読んでもらえとるのは)嬉しい。これを通して続けることの大切さを学びよります。この機会やスペースを与えてくれた町のみなさん、ありがとうございます。町を離れて暮らす私はささいなことでも故郷の存在に救われる。充電完了。さあ、また東京できばろかね。(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.151

「水玉模様」



各地で梅雨入りのニュースが流れる季節となってきた。暦の上での入梅は6月11日と決まっているが、雨の日が多くなる気象上の梅雨入りは各地で異なっている。

梅雨という名前の由来については、いろいろな説があるようだ。「梅の実が熟するころに降る雨」という説が有力なようである。雨が多くジメジメとした季節だが、水玉模様の魚でも撮影して気分を盛り上げたい。

クビアカハゼは、名前の通り、首に赤色の帯がある。その周りに赤色・黄色・白色の派手な水玉模様が付いている。体長が6cmほどの小さなハゼの仲間で、テッポウエビの掘った巣穴に居候している。住まわせてもらう代わりに、エビが魚に襲われないように見張りをしている。穴を掘るのが得意なテッポウエビと、視力の良いハゼと



【見張りをするクビアカハゼ】

が助け合って生活をしている。このように互いに助け合う関係を共生というが、現在の人間は自然との共生を忘れてしまっているのではないかと心配である。

(撮影地：瀬ノ浜)

愛南サンゴを守る会 西尾知照